

社会福祉法人連携による公益的活動の現状と今後の課題
—兵庫県の現状における一考察—

社会福祉学専攻 澤村 安由里

要 約

・問題意識

社会福祉法人は2016年社会福祉法に改正により、「地域に公益的な取組」をすることを責務化された。兵庫県においては、制度の狭間で困窮している方を発見し支援するため、一法人一施設で余力のない法人も地域に公益的な取組活動をするため、既実践している法人のノウハウを共有するため等のメリットから一法人で地域に公益的な取組を実施することに加えて、複数法人が連携する活動を推進することとした。地域に密着した活動をするため「ほっとかへんネット（社会福祉法人連絡協議会）」という名称を用いて、市区町単位で、複数の社会福祉法人が連携し「公益的な取組」をすることを全県下で展開を進めている。連携が有効に機能し有意義な取組実践をすすめている「ほっとかへんネット」がある一方、連携はしたが活動が進まない「ほっとかへんネット」、連携自体がうまくできない「ほっとかへんネット」と様々である。「ほっとかへんネット」が有効に機能し、制度の狭間で困っている人に支援の手が届き、有効な活動ができるときにはどうしたらよいのだろうか。

・研究の目的

今回、社会福祉法人が市区町単位で連携し、「地域に公益的な取組」をしている実践活動の現状を調査・分析することにより、以下のことを明らかにする。複数の社会福祉法人が連携ネットワークを構築し、地域に公益的な取組活動を実践するうえで、有意義な活動実践が展開できているところとできていないところの違いは何か。ネットワークの規模や地域性かそれともその他の何が影響しているのか。その課題をどのように解決したら、社会福祉法人連携のネットワークが有意義に機能するのか、またどうあるべきかを明らかにしたい。

・研究方法

オープンデータによる分析（外的妥当性の分析）

文献調査（外的妥当性の分析）

インタビュー調査（内的妥当性の分析）

・結果と考察

今回の調査を通して、市区町単位で社会福祉法人が連携ネットワークを構築し、「地域に公益的な取組み」活動を実践する場合、以下の事が重要であるということがわかった。

① 理念の共有

法人代表者（理事長・施設長等）が、なぜ、今、社会福祉法人が連携し地域に公益的な取組みをしなくてはならないのかを認識し、法人代表者間で共有する。各法人内の実務担当職員に向けても法人代表者から研修や会議などを通して、発信し共有する。そうすること

により、目的を理解していないのに「やらされ感」で活動するのではなく、目的意識と使命感を持って自ら活動に参加できる。そのために「理念の共有」が大切である。

② 顔の見える信頼関係

会員である社会福祉法人の数の多い「ほっとかへんネット」の好事例では、委員会方式や地区割方式やプロジェクト方式などの工夫により、10 法人程度の顔の見える信頼関係を築いて活発な活動をしていた。顔の見える信頼関係を築くことが大切である。

③ リーダーシップとフォロワーシップ

有意義な取組を行う場合、強いリーダーシップは必要ではなく、専門職である各フォロワーが、アクティブ型フォロワーとして能動的に活動することが望ましい。

・まとめ

現在の「ほっとかへんネット」の活動内容を分類するとは、大きく3つに分けることができる。ひとつめは、「相互支援や共存のための連携」で、「ほっとかへんネット」のネットワークの内側での活動である。ふたつめは「個別支援やコミュニティ支援」で、困窮者支援など困っている方への支援である。三つめは「地域づくり」で、全ての活動はこれに繋がる活動である。

社会福祉法人の「地域に公益的な取組」は、法的責務だからするのではない。また、地域住民のためにするのでもない。社会福祉法人も地域の一員として、地域住民と共に協働して地域づくりを目指すために連携し支え合うしくみを目指すものである。

これからは、社会福祉協議会を含む社会福祉法人が、市区町単位で連携し行政と協働し、地域福祉を担っていくことが期待されている。そのためには、これまで以上に、社会福祉法人の存在や社会福祉法人連携ネットワークの存在と働きを認知してもらう活動が期待される

「法的責務だからする」「住民の為にする」ではなく、自分たちも地域の一員であり、自分たちの地域コミュニティを再生していく、共に地域づくりをしていくという意識を持ち、地域住民や既存のネットワークと協働していく。課題解決型支援のネットワークではなく、伴走支援型のネットワークとして、「ほっとかへんネット」の活動を積み重ね続けることが必要である。その結果、「ほっとかへんネット」が「地域の一員であり、なくてはならないネットワーク」として、地域住民に認知され、地域住民とともに「豊かで多様なつながりのある社会的孤立を生まない地域づくり」を担うことができるようになる。

やがては社会福祉法人の連携ネットワークである「ほっとかへんネット」が地域の一員として地域にあるのが当たり前存在になる事が理想である。